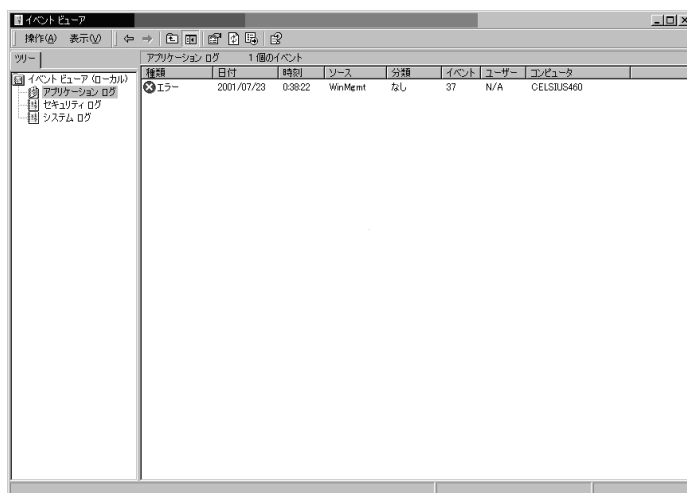


## 本製品をお使いの方へ

このたびは、弊社の製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本紙では、本製品をお使いになるうえで知っておいていただきたいことを記載しております。本紙をよくお読みになり、本製品を正しくお使いいただきますようお願いいたします。

### ■ CELSIUS460 Windows®2000 モデルをお使いの方へ

CELSIUS460 で Windows®2000 をお使いの場合、製品の電源投入時にイベントビューアに以下のようなエラーログが記録される場合があります。



本現象は、Windows®2000 の既知の問題として Microsoft 社の Web にて公開されております。本現象の原因／対応方法については以下の URL を参照願います。

<http://www.microsoft.com/JAPAN/support/kb/articles/JP266/4/16.HTM>

## ■ BIOS 設定値についての注意

本ワークステーションの BIOS 設定値について注意事項がございます。なお、その他の BIOS の設定内容につきましては「ハードウェアガイド」－「第 3 章 BIOS 設定」をご覧ください。

### 1. Power Management Mode（省電力機能）の設定（注意事項）

Power Management Mode は省電力機能を設定する項目です。

**※工場出荷時には、「Disabled」に設定されていますので、変更しないでください。**

本ワークステーションでは、BIOS 設定による省電力機能をサポートしておりません。省電力モードを「Disabled」以外に設定しますと、省電力機能において不具合を引き起こす場合があります。設定の確認方法については、本ワークステーション添付の「ハードウェアガイド」－「3 章 BIOS 設定 Power」を参照してください。

また、BIOS 設定を「Get Default Values」で初期設定に戻した場合、「Power Management Mode」は工場出荷時の設定には戻りません。必ず、上記ハードウェアガイドを参照し、「Disabled」に設定してください。

### 2. System Management - FAN Control の設定（注意事項）

FAN Control はワークステーション内部に取り付けられたファンの回転速度の制御方法を設定する項目です。

**※工場出荷時には、「Auto」に設定されていますので、変更しないでください。**

本ワークステーションでは、「Auto」以外の設定をサポートしておりません。「Auto」以外に設定しますと、装置運用に最適な温度制御が働きません。

設定の確認方法については、本ワークステーション添付の「ハードウェアガイド」－「3 章 BIOS 設定 System Management」を参照してください。

## ■ Millennium G450 搭載モデルをお使いの方へ

グラフィックスカードのカスタムメイドで Millennium G450 搭載モデルをお使いの方へ、以下の注意事項があります。

### 1. ディスプレイドライバの設定変更について

Millennium G450 搭載モデルの場合、出荷時状態では「バスマスタリング」機能が有効になっています。この設定のまま使用すると、以下のような問題が発生する場合があります。

- ・ご使用のアプリケーションにより、画面の表示崩れなど正しく表示できない場合がある。

「バスマスタリング」機能を無効にすることでこの問題を回避することができます。  
設定変更方法につきましては、インストールされている OS タイプにより異なります。問題が発生した場合、以下を参照して、必ず設定の変更を行ってください。

#### ● Microsoft®WindowsNT®4.0 をご使用の場合の設定変更手順

1. 「スタート」メニュー → 「設定」 → 「コントロールパネル」を選択
2. 「Matrox 表示プロパティ」をダブルクリック → 「パフォーマンス」タブを選択
3. 「バスマスタリングを行う」のチェックをはずす → 「OK」をクリック
4. システムの再起動が要求されますので、「はい」をクリックし再起動してください。

#### ● Microsoft®Windows®2000 をご使用の場合の設定変更手順

1. 画面中央を右クリック → 「プロパティ」を選択
2. 画面のプロパティの「設定」タブを選択
3. 「詳細」ボタン → 「オプション」タブを選択
4. パフォーマンス「バスマスタリングを行う」のチェックをはずす
5. 「適用」をクリック
6. 画面のプロパティ「閉じる」をクリック
7. システムの再起動が要求されますので、「はい」をクリックし再起動してください。

### 2. ACPI S3（スタンバイモード）設定について

ACPI S3 は、BIOS 設定でスタンバイモードを設定する項目です。

**※Millennium G450 搭載モデルの工場出荷時の BIOS 設定では、ACPI S3「Disabled」に設定されていますので、変更しないでください。**

Millennium G450 搭載モデルでは、S3 スタンバイモードをサポートしておりません。本項目を「Enabled」へ設定しますと、スタンバイモードから復帰できない場合があります。**必ず「Disabled」でご使用ください。**設定の確認方法については、本ワークステーション添付の「ハードウェアガイド」－「3 章 BIOS 設定 Power」を参照してください。

また、BIOS 設定を「Get Default Values」で初期設定に戻した場合、「ACPI S3」は工場出荷時の設定には戻りません。上記「ハードウェアガイド」及び「本製品をお使いの方へ」の記載内容と合わせて、必ず本設定を「Disabled」に設定してください。

## ■ CELSIUS Quadro2 MXR 搭載モデルをお使いの方へ

グラフィックスカードのカスタムメイドで CELSIUS Quadro2 MXR 搭載モデルをお使いの方へ、以下の注意事項があります。

### ディスプレイドライバの設定変更について

CELSIUS Quadro2 MXR 搭載モデルで Windows 2000 をお使いの場合、出荷時状態では「バッファフリップモード」の設定が「自動選択」になっています。この設定で使用すると、次のような問題が発生する場合があります。

- ・ **実行中のアプリケーションを強制終了すると画面表示がくずれる。**

「バッファフリップモード」の設定を「ブロック転送を使用」とすることでこの問題を回避することができます。以下に示すようにディスプレイドライバの設定を変更してお使いください。（なお、設定変更によるパフォーマンスの低下はありません。）

#### 設定変更手順：

1. 画面中央を右クリック → 「プロパティ」を選択
2. 画面のプロパティが開きますので、「設定」タブを選択
3. 「詳細」ボタンをクリック
4. 「（規定のモニタ）と Quadro2 MXR プロパティ」が開きますので、「Quadro2 MXR」タブを選択
5. 「詳細プロパティ」ボタンをクリック
6. 「詳細 Quadro2 MXR プロパティ」が開きますので、「OpenGL 設定」タブを選択
7. 「**バッファ フリップ モード**」のデフォルト設定が「自動選択」になっていますので、プルダウンメニューを開いて「ブロック転送を使用」を選択
8. 「OK」ボタンをクリック
9. 「画面のプロパティ」ボタンをクリック
10. システムを再起動すると完了

## ■CELSIUS GL2 搭載モデルをお使いの方へ

グラフィックスカードのカスタムメイドで CELSIUS GL2 搭載モデルをお使いの方へ、以下の注意事項があります。

### 1. システムフォントについて

CELSIUS GL2 搭載モデルでは、システムフォントを「大きいフォント」に変更しますとウィンドウ内のメッセージが正しく表示されない場合があります。

システムフォントの設定方法は、以下を参照してください。

**Windows NT** : 画面中央を右クリック → 「プロパティ」を選択 →  
「画面のプロパティ」→ 「ディスプレイの設定」タブを選択 →  
「フォントサイズ」の指定

**Windows 2000** : 画面中央を右クリック → 「プロパティ」を選択 →  
「画面のプロパティ」→ 「設定」タブを選択 →  
「詳細」ボタン →  
「DIAMOND Fire GL2 Video Accelerator のプロパティ」→  
「フォントサイズ」の指定

### 2. マウスカーソルの影について

CELSIUS GL2 搭載モデルで Windows2000 をお使いの場合、「Print Screen」ボタンを押した時に、マウスカーソルの陰影が黒くつぶれることがあります。この現象による動作上の問題はありません。

マウスを右クリックすると、カーソルの影は元に戻ります。

## ■CELSIUS Wildcat II 5110 搭載モデルをお使いの方へ

グラフィックスカードのカスタムメイドで CELSIUS Wildcat II 5110 搭載モデルをお使いの方へ、以下の注意事項があります。

### 1. ディスプレイドライバのインストール

CELSIUS Wildcat II 5110 搭載モデルでは、お客様が OS のリカバリを行った場合、グラフィックスドライバがインストールされません。本手順書を参照して、必ずドライバのインストールを行ってください。

#### 【WindowsNT4.0 をお使いの場合】

- 1) 管理者権限を持ったユーザでログオンします。
- 2) 「**ドライバーズ CD**」と記載された CD-ROM を CD-ROM ドライブ（または、CD-ROM メディアの読み込みが可能なドライブ）にセットします。
- 3) 「スタート」―「設定」―「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 4) 「コントロールパネル」が表示されますので、「画面」アイコンをダブルクリックします。
- 5) 「画面のプロパティ」が表示されますので、「ディスプレイの設定」タブをクリックし、次に「ディスプレイの種類」ボタンをクリックします。
- 6) 「ディスプレイの種類」が表示されますので、「アダプタの種類」の「変更」ボタンをクリックします。
- 7) 「ディスプレイの変更」が表示されますので、「ディスクの使用」をクリックします。
- 8) 「フロッピーからのインストール」が表示されますので、  
**e:\nt40\wc5110\wcgdrv** （CD-ROM ドライブとして e:¥ を指定しています）  
と入力して「OK」ボタンをクリックします。
- 9) 「ディスプレイの変更」が表示されますので、「3Dlabs Wildcat Pro」を選択し、「OK」をクリックします。
- 10) 「サードパーティドライバをインストールしようとしています」と表示されますが、「OK」をクリックします。  
すると、ドライバの書き込みが開始されます。
- 11) 書き込み終了後、「ドライバは正常にインストールされました」と表示されますので、「OK」をクリックします。
- 12) 「ディスプレイの種類」で「閉じる」をクリックします。
- 13) 「画面のプロパティ」で「閉じる」をクリックします。
- 14) 「システム設定の変更」と表示され、再起動を要求されますので、「はい」をクリックします。
- 15) システムが再起動します。

## 【Windows2000 をお使いの場合】

本ドライバは **CELSIUS Wildcat II 5110 VGA ドライバ**と **CELSIUS Wildcat II 5110 ドライバ**の2種類のドライバをインストールする必要があります。以下の手順に従い、2種類のドライバをインストールしてください。

- 1) 管理者権限を持ったユーザでログオンします。

＜ご注意＞ このときプラグアンドプレイ機能により「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」が複数開く場合がありますが、すべて「キャンセル」ボタンをクリックします。

- 2) 「**ドライバーズ CD**」と記載された CD-ROM を CD-ROM ドライブ（または、CD-ROM メディアの読み込みが可能なドライブ）にセットします。
- 3) はじめに、CELSIUS Wildcat II 5110 VGA ドライバをインストールします。
- 4) 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 5) 「ファイル名を指定して実行」が表示されますので、「名前」の欄に

**e : ¥w2k¥wc5110¥wcdrv ¥setup.exe**

（CD-ROM ドライブとして e:¥ を指定しています）

と入力して「OK」ボタンをクリックします。

- 6) 「Wildcat ディスプレイドライバのインストール」ダイアログが表示され、CELSIUS Wildcat II 5110 VGA ドライバのインストールが行われます。
- 7) 「Wildcat ディスプレイドライバのインストール」ダイアログが閉じましたら、Wildcat II 5110 VGA ドライバのインストールは終了です。

＜ご注意＞ ドライバインストール中に、画面が一瞬ちらつきます。この現象は CELSIUS Wildcat II 5110 VGA ドライバをセットしているために起きている現象です。本ワークステーションの故障等が原因ではありません。

- 8) 続いて、CELSIUS Wildcat II 5110 ドライバをインストールします。
- 9) 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 10) 「ファイル名を指定して実行」が開きますので、「名前」の欄に

**e : ¥w2k¥wc5110¥wcdrv ¥setup.exe**

（CD-ROM ドライブとして e:¥ を指定しています）

と入力して「OK」ボタンをクリックします。

- 11) 「Wildcat ディスプレイドライバのインストール」ダイアログが表示され、CELSIUS Wildcat II 5110 ドライバのインストールが行われます。
- 12) 「Wildcat ディスプレイドライバのインストール」ダイアログが消え、画面がしばらくブラックアウト（黒い画面を表示）した後、元の画面に戻ってきましたらドライバのインストールは終了です。

＜ご注意＞ ドライバインストール中に、画面がブラックアウトする現象は Wildcat II 5110 ドライバをセットしているために起こる現象です。本ワークステーションの故障等が原因ではありません。また、ブラックアウトの時間は 10 秒ほどかかる場合もございます。

- 13) システムを再起動します。

## 2. ACPI S3（スタンバイ）モード設定について（注意事項）

ACPI S3 は、BIOS 設定でスタンバイモードを設定する項目です。

**※CELSIUS Wildcat II 5110 搭載モデルの工場出荷時の BIOS 設定では、ACPI S3「Disabled」に設定されていますので、変更しないでください。**

CELSIUS Wildcat II 5110 搭載モデルでは、S3 スタンバイモードをサポートしていません。本項目を「Enabled」へ設定しますと、スタンバイモードから復帰できず、システムが停止します。**必ず「Disabled」でご使用ください。**設定の確認方法については、本ワークステーション添付の「ハードウェアガイド」－「3章 BIOS 設定 Power」をご参照ください。

また、BIOS 設定を「Get Default Values」で初期設定に戻した場合、「ACPI S3」は工場出荷時の設定には戻りません。上記「ハードウェアガイド」及び「本製品をお使いの方へ」の記載内容と合わせて、必ず本設定を「Disabled」に設定してください。

## 3. 画面表示について（注意事項）

エクスプローラ等においてマウスのドラッグによるファイルコピーなどの動作中に、まれに残像が表示される場合があります。その場合、他のウィンドウを重ねることによって残像を消すことができ、解決することができます。また、この現象によるシステム動作への影響はありません。

## 4. デュアルモニタ設定について（注意事項）

画面のプロパティにおける Wildcat の構成画面で注意事項があります。

「画面のプロパティ」－「設定」－「詳細」ボタンをクリックし、「Wildcat の構成」タブをクリックします。そこで画面の下側に「表示の最大数」という項目があります。これはお使いの環境がモニタ 1 台であるのか 2 台であるのかを設定する項目です。但し、CELSIUS Wildcat II 5110 搭載モデルはデュアルモニタ出力機能をサポートしていません。Windows2000 モデルをお使いの場合、「1」「2」というボタンを選択できるようになっていますが、通常は「1」のまま変更しないでください。また、WindowsNT モデルをお使いの場合、内容が何も表示されておらず、モニタ台数を設定できないようになっています。



## ■PXE について

本ワークステーションに標準搭載されている LAN カードは PXE (Preboot eXecution Environment) をサポートしています。PXE のセットアップ方法について、以下に記します。

### 「Intel(R) Boot Agent」セットアップ画面への入り方

1. 本ワークステーションの電源投入後、CELSIUS ログ画面が表示されましたら、[F3]キーを押して、POST 画面を表示します。
2. 次に以下の PXE 初期化メッセージが画面上部に表示されましたら(標準では 2 秒間のみ表示)、[CTRL]+[S]キーを押すとセットアップ画面へ入ります。

**Initializing Intel(R) Boot Agent Version x.x.xx**

**PXE 2.0 Build 078 (WfM 2.0), RPL Vx.xx**

3. セットアップ画面を以下に示し、各項目の説明をします。

Intel(R) Boot Agent Version x.x.xx			
Setup Menu			
Network Boot Protocol		PXE	
Boot Order		Try local drives first, then network	
Show Setup Prompt		Disabled	
Setup Menu Wait Time		2 seconds	
Legacy OS Wakeup Support		Disabled	
Select remote boot Protocol. ※			
<Esc>	<Space>	<Enter>	<F4>
Cancel Changes	Change Value	Next Option	Save Configuration

※: 選択している項目によって内容が変わります。

### ○Network Boot Protocol

※の内容: Select remote boot Protocol.

ネットワークからブートする場合に使用するプロトコルを設定します。

#### ー PXE (初期値)

Intel のプロトコルを使用します。

#### ー RPL

IBM のプロトコルを使用します。

## ○Boot Order

※の内容: Select order in which boot devices are queried.

オペレーティングシステムをどのドライブからどの順番で読み込むかを設定します。

本項目で設定した内容は、本体の BIOS Setup Utility で設定された Boot Sequence よりも優先されます。

### — Try local drives first, then network (初期値)

本体の BIOS Setup Utility で設定された Boot Sequence が有効になります。

### — Try network only

ネットワークのみから読み込みます。(本体装置に搭載している他のドライブは無視します。)

### — Try local drives only

本体装置に搭載しているドライブを読み込みに行きます。(ネットワークは無視します。)

### — Try network first, then local drives

最初にネットワークを読み込みに行き、次に本体装置に搭載されているドライブを読み込みに行きます。

## ○Show Setup Prompt

※の内容: Select whether Ctrl+S message appears during initialization.

PXE 初期化メッセージに、セットアップ画面に入る方法を表示するかどうか設定します。

### — Disabled (初期値)

PXE 初期化メッセージのみ表示します。

### — Enabled

「Press Ctrl+S to enter the Setup Menu」が表示されます。

## ○Setup Menu Wait Time

※の内容: Select number of seconds to wait for Ctrl+S during initialization.

PXE 初期化メッセージを表示する時間を設定します。

### — 2 seconds (初期値)

### — 3 seconds

### — 5 seconds

### — 8 seconds

## ○Legacy OS Wakeup Support

※の内容: Allow/disallow non-Windows OS to use adapter remote wakeup capability.

Windows 以外の OS の起動もサポートするかどうか設定します。

### — Disabled (初期値)

Windows 以外の OS の起動をサポートしません。

### — Enabled

Windows 以外の OS の起動をサポートします。